

HALC

コミュニティセンター

設|立|趣|意|書



『ラパン・アジル』

狩野 守画

社団法人二科会 常務理事

1929年1月10日生まれ

2004年7月17日、肺癌にて逝去（享年75歳）

* 『ラパン・アジル』は絶筆となった。意識がなくなっても、絵筆を握るようにして、空中に絵を描き続けていたという。

その姿に接した友人は、早すぎる死に涙が止まらなかったと言っている。



はじめに	1
I. 福祉・文化・芸術・自然・いのち・平和をスピリットとして	2
II. 榛名荘結核保養所と新生会老人ホーム	3
(1) 生き生きと創造的に病を癒すために	
(2) 社会の欠陥より生ずる不幸な人々のために	
III. ヒューマンケアコミュニティをめざして	3
(1) 文化としての福祉の創造	
(2) 福祉の芸術化	
(3) 愛を基とした人間福祉の創造	
IV. HALC コミュニティセンターの設立	4
(1) HALC の理念 (The Spirit)	
(2) HALC の目標 (The Vision)	
V. 事業概要	6
(1) 統合医療ケア研究所	
(2) 芸術生活センター	
(3) 人間芸術塾 (研修センター)	
(4) 事務センター (法人本部)	
建築計画概要	8
配置図	9
1階平面図	10
2階平面図	11
3階平面図	12
4階平面図	13
屋上階平面図	14
事業資金について	15
新生会の歴史と沿革	16

はじめに

「HALC」と名称が定まり、基本設計図が完成したのは、2003年10月。当初、特別養護老人ホーム・榛名憩の園との合築で企画を進めていましたが、榛名憩の園の建築に全額を注ぎ込むことで、合築は実現しませんでした。

日本の社会福祉・医療・教育は、21世紀に入って制度的には顕著に後退しました。これら三領域の基は、ケア・癒し・育むことではありますが、経済至上主義政策は、実に見事に、これら精神軸を制度の外に追放しました。

その結果、社会環境からやさしさやいたわり、思いやりが欠乏し、人間関係はとげとげしいものとなりました。

もはやこのような悲惨な状況に対し、忍従するだけではすまなくなりました。

「La Vie est dure, mais il faut toujours espérer…」[いのち（生きること）はつらい（困難に満ちている）。けれども、常に希望をもち続けなければならない]（フランス文学者・宇佐美 斉）

いかに困難であろうとも、真の希望を失わなければ、神から賜った人間性の善きものを、豊かに生き生きと花開かせる社会環境を創出することができると思います。

私たちは今こそ、人間の精神性が主人公となる社会を創出するために立ち上がることを決意しました。その創造への着手が「HALCコミュニティセンター」を建設することです。

I

福祉・文化・芸術・自然・いのち・平和をスピリットとして

私が最初に社会福祉の実践と理論を統合した研究所の設立を企画したのは、1985年のことでした（福祉文化研究所）。それはいつしか社会福祉に働く若人の成長を目標にした人間芸術塾となり、カウンセリングや臨床実習を軸にセミナーを開催するようになりました。それらを軸に榛名荘・新生会コミュニティの目標は、Human・Art・Life・Careとなりました。これらのコミュニティの目標を、全社会的に、そして世界中に発信してゆくために、HALCコミュニティセンターの設立（建設）を決意するに至りました。

今、日本も世界も「すこやかさ」が脅かされ、人間も社会も苦しんでいます。人間が自然といのちに生まれ、芸術を通して社会に福祉文化を根付かせ、創造的な人間関係を基として、世界に平和を構築していきたいと思います。その活動拠点がHALCです。

福祉・文化・芸術・自然・いのち・平和をスピリットとした交響曲が榛名山南麓の風光明媚なこの土地から奏でられる準備が着々と進行しています。愛と美を基調にした〔Human Art Life Care Community Center〕の実現のために、皆さまの絶大なるご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

社会福祉法人 新生会
理事長 原 慶子



II

榛名荘結核保養所(現在、財団法人 榛名荘)と新生会老人ホーム(現在、社会福祉法人 新生会)

(1) 生き生きと創造的に病を癒すために

1938(昭和13)年、榛名山南麓の風光明媚なこの土地に「榛名荘結核保養所」が設立されました。日本はまもなく太平洋戦争に突入し、人々は不安と恐怖の日々を過ごしておりました。榛名荘にはたくさんの患者さんたちが都会から戦火を逃れて集まって来ました。急いで建築された木造の病棟で職員と患者さんたちは共に田畑を耕し、共に芸術活動に勤しみ、楽しく、前向きに療養生活に専念しておりました。

(2) 社会の欠陥より生ずる不幸な人々のために

1957(昭和32)年、使われなくなった結核病棟を改造して、不幸なお年寄りのために「榛名荘老人ホーム 恵泉園」を設立しました。それが社会福祉法人 新生会の最初の老人ホームでした。その後、社会と人々の要請に応えるように新しい高齢者の住居が拡充され、現在のコンビネーションシステムが完成されたのです。

III

ヒューマン ケア コミュニティをめざして

(1) 文化としての福祉の創造

1984(昭和59)年、「文化としての福祉を訪ねて」ヨーロッパ老人ホームの建築と環境の視察の旅に出かけました。私たちがそこで実感したのは、福祉が文化となり、芸術が生活に溶け込んでいるということでした。帰国後、ごく自然に「福祉・文化・芸術」と「クリエイティブに（創造的に）生き、生活し、仕事すること」が重なり合ったのです。

(2) 福祉の芸術化

クリエイティブに生き、生活し、仕事をすることとは、本物を追究することです。ミケランジェロが大理石でピエタ像やダビデ像を刻みつけたように、福祉の仕事をしたい、そして芸術に向かう志を持ったコミュニティを形成していこう。それが新生会のヴィジョンとなりました。

(3) 愛を基とした人間福祉の創造

新生会は2007年に創立50周年を迎えました。

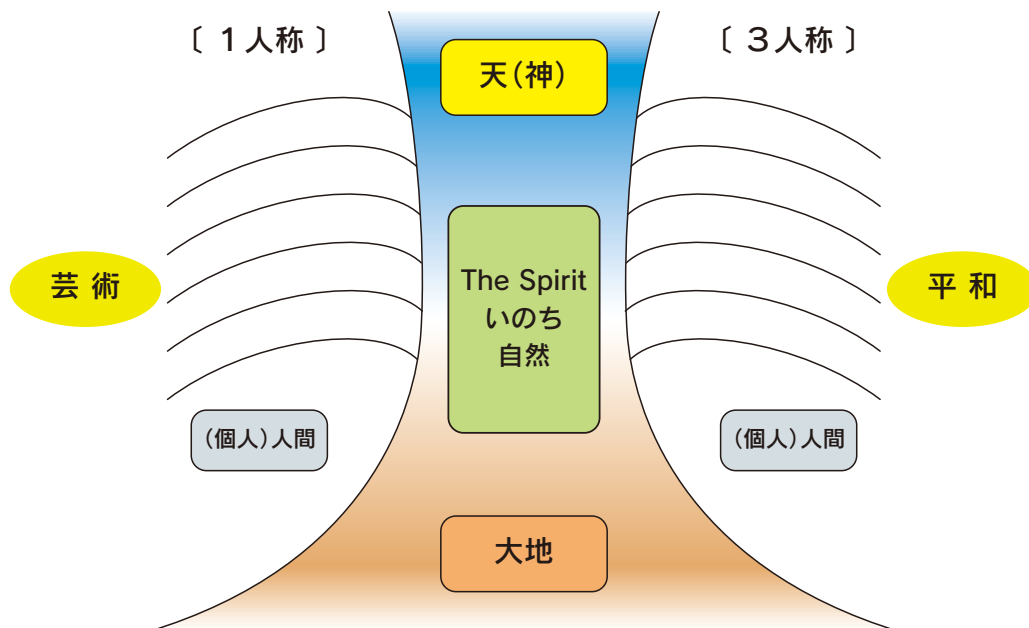
そして、榛名荘は2008年に創立70周年を迎えます。共に長い年月をかけて、住環境とケア環境の整備に全身全霊を傾けてきました。その根幹には、いつも榛名荘・新生会をご利用なさる方々が「安心して病を癒し、生き生きと創造的に年を重ねるために」という一念（ヴィジョン）がありました。「愛を基とした人間福祉」をさらに前進・充実するために構想されたのが〔HALCコミュニティセンター〕です。

IV

〔HALCコミュニティセンター〕の設立

(1) HALCの理念 (The Spirit)

“個人と社会をつなぐイメージ図”

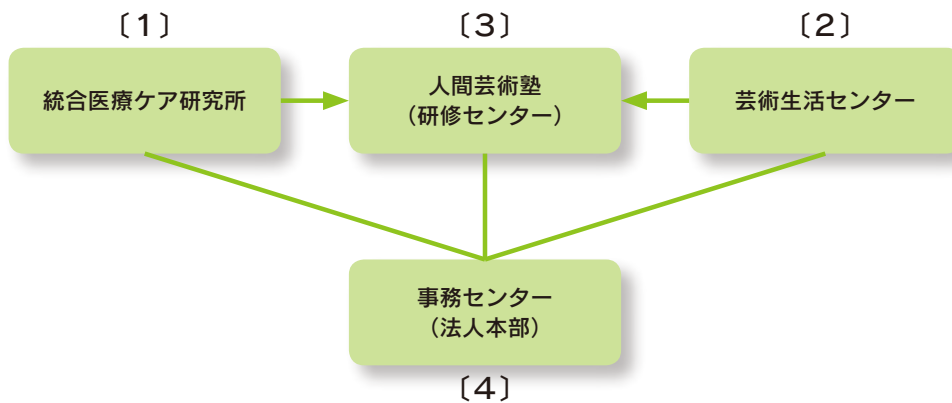


私たち1人1人は、各々主体性を持った個として、個人的には一人称として、社会的には三人称として存在しています。その精神軸が「天と地を結ぶ幹」です。そこにThe Spiritが宿り、いのちが育まれ、自然が生まれます。私たちはそこから芸術を生み出し、平和を創り出すのです。HALCの理念は、芸術活動を通して社会に平和を創造していくことです。

(2) HALCの目標 (The Vision)

〔HALC〕は、“Human Art Life Care”の各々の頭文字をとりました。「ハルク」と発音いたします。Humanは「人間」、Artは「芸術・^{わざ}技」、Lifeは「いのち・生活」、Careは「愛・配慮」を意味します。「HALC」は、4部門の活動を行います。

4部門の相関図



2005.4.27 ㄥ

事業概要

(1) 統合医療ケア研究所

【主旨】

近年増加する認知症とアルツハイマー病の治療と研究を行う。方法として、西洋医学・東洋医学・理学療法・作業療法、その他のセラピーを用いた病状の改善を目的とする。

【構成メンバー】

所長：山口晴保（群馬大学 医学部 教授）

所員：宮口信吾（みやぐち医院 院長）、大田英一郎（新生会診療所 所長）、

原 孝洋（新生会診療所 次長／鍼灸師）、白石茂利夫（新生会診療所 リハビリテーション課 課長／理学療法士）

(2) 芸術生活センター

【主旨】

様々な芸術活動を通して「クリエイティブライフ」を追求し、生き生きと創造的に年を重ねるための生活環境を整備することを目的とする。

【構成メンバー】

所長：小林裕児（画家）

所員：三谷 慎（彫刻家）、瀬辺佳子（彫刻家）、佐藤幸代（画家）、

大倉美枝子（七宝絵画）、佐藤 焔（陶芸家）、佐藤栄一（教会音楽家・作曲家）



(3) 人間芸術塾（研修センター）

〔主旨〕

生涯教育（Life Long Integrated Education）を基本とした多岐に渡る学習と研修を行う。また、芸術療法や運動療法を始めとしたサブメディカル療法を取り入れたワークショップを展開する。それらの活動を通して、医療・社会福祉・教育分野のケアの向上と「QOL」（Quality of Life）の向上に寄与することを目的とする。

〔構成メンバー〕

所 長：原 慶子（新生会 理事長／マチュアホーム 穂和の園 園長）
講 師：鈴木育三（新生会 常務理事／新生会 地域生活支援センター 所長）、
関 正勝（立教大学 名誉教授）、田中三郎（元駐キューバ大使）、
中村千賀子（東京医科歯科大学 教養部 准教授）
特別顧問講師：今道友信（東京大学 名誉教授）、
荒井 献（東京大学・恵泉女学園大学 名誉教授）、
竹田 眞（新生会後援会 会長／聖公会神学院 理事長）
ワークショップ講師：統合医療ケア研究所、芸術生活センターの先生方



(4) 事務センター（法人本部）

〔主旨〕

手狭になった法人本部事務所の移転改築。パソコンを用いた事務関連業務のネットワーク化に対応した整備を行う。新生会とHALCコミュニティセンターの経営と運営の中心的役割を担う機関。

〔ディレクター〕

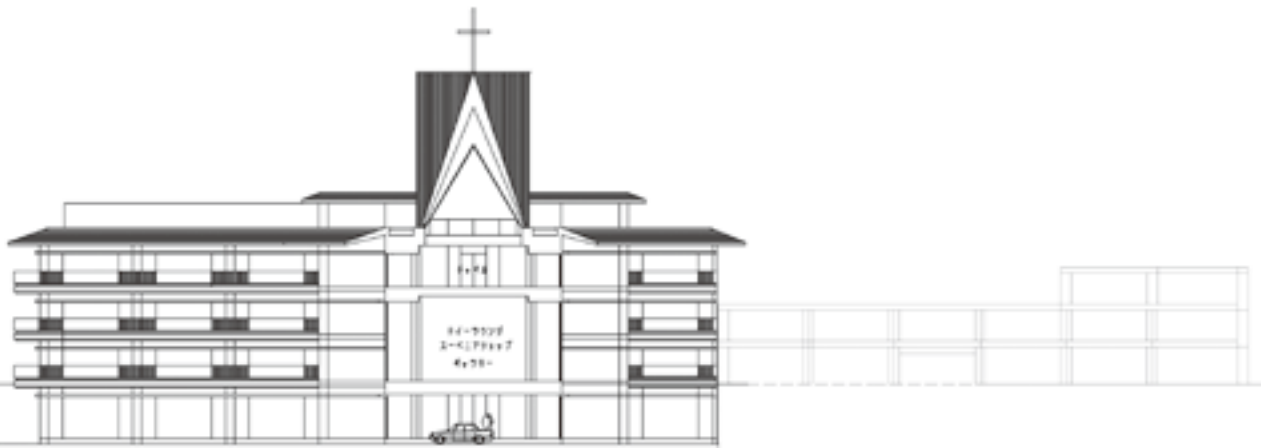
中嶋芳正（新生会 常務理事／新生会 事務長）

〔構成メンバー〕

財務部・総務部・庶務部・研修企画部・渉外営業部

建築計画概要

建築位置	榛名憩の園 跡地	
延べ面積	2725㎡ 824坪	
構造	鉄筋コンクリート造	
階数	地上4階	
面積表		
	屋階	91 28
	4階	710 215
	3階	593 179
	2階	748 226
	1階	583 176
	合計	2725㎡ 824坪
主要用途		
	1階：統合医療ケア研究所、芸術作品収蔵庫、 工芸室、職員休憩室、更衣室、職員玄関	
	2階：正面玄関、法人本部、後援会事務室 新生ヒューマンアート事務室 ギャラリー、ティーラウンジ	
	3階：人間芸術塾、芸術生活センター 講師室、研究室、ギャラリー、図書室	
	4階：講師室、チャペル、コミュニティホール 芸術生活センター	
	屋階：屋上庭園	



HALC コミュニティセンター 建築図 生活支援ハウス

南側立面図



案内通路

案内通路

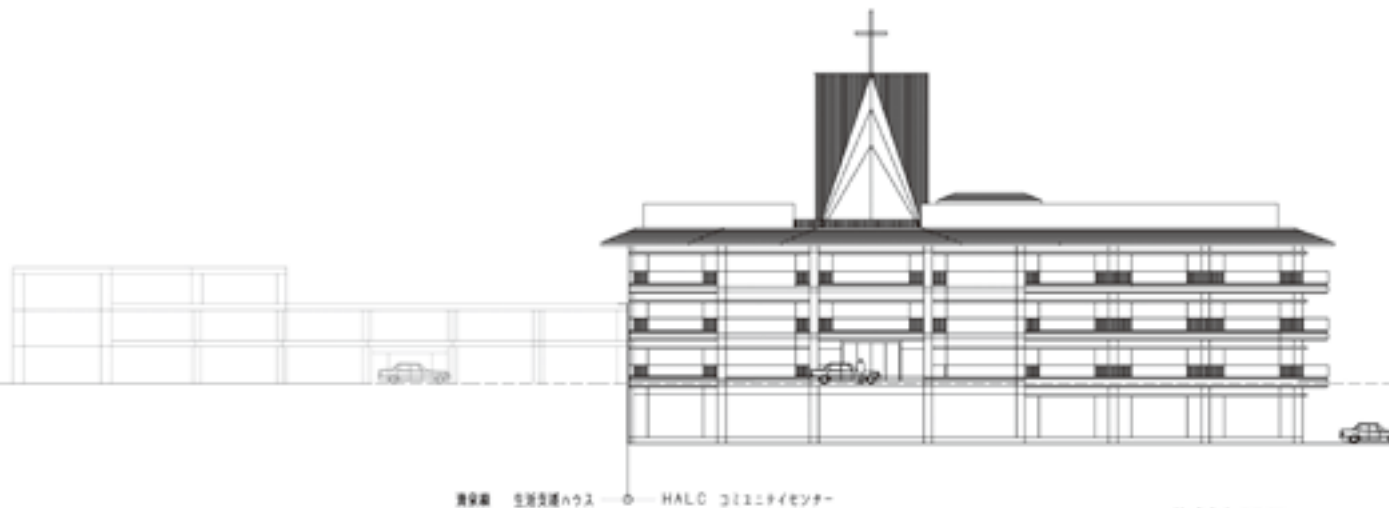
特別養護老人ホーム 緑名園の里

1 5 10m

S 1:500

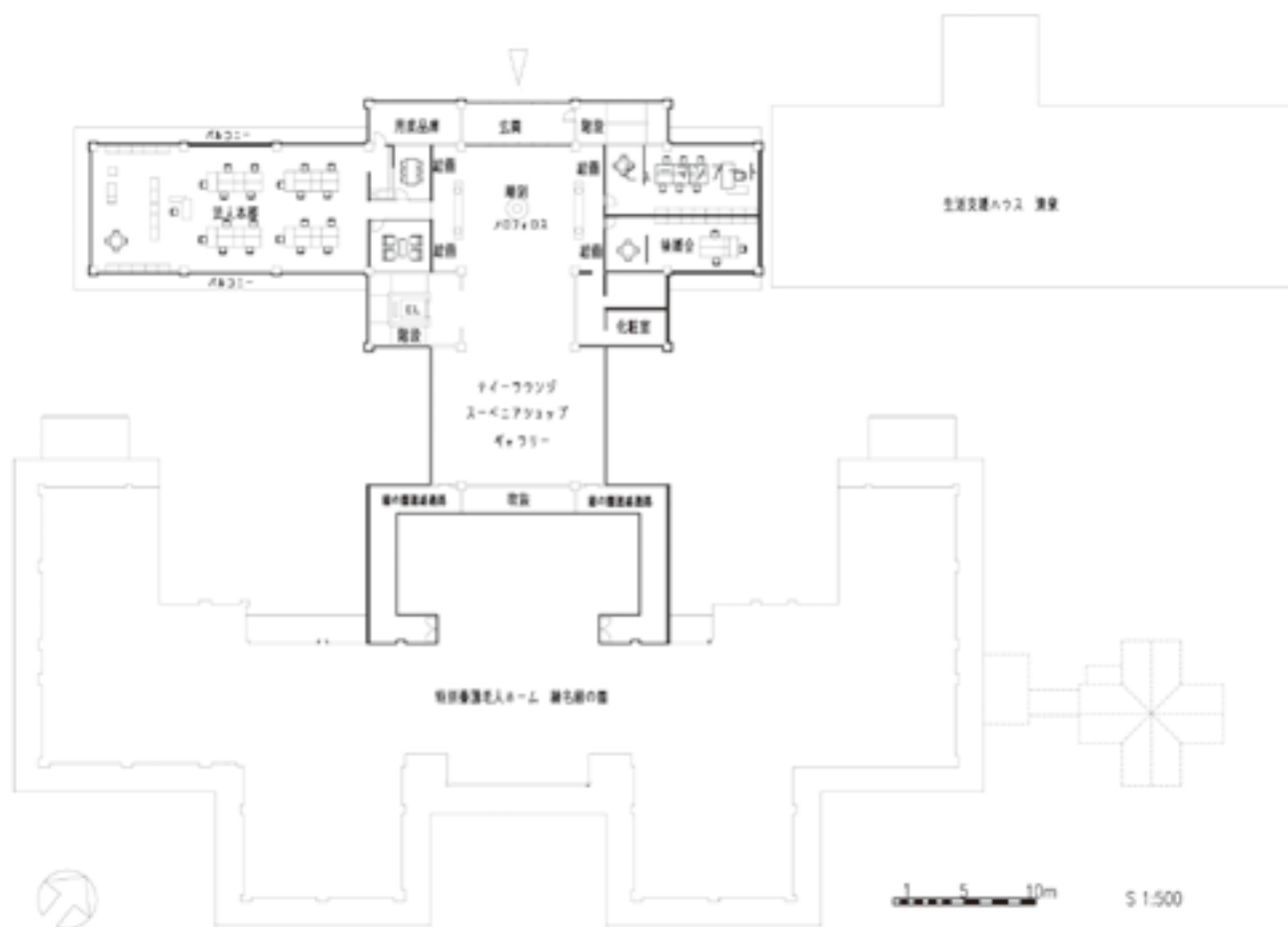
統合医療ケア研究所

1階平面図



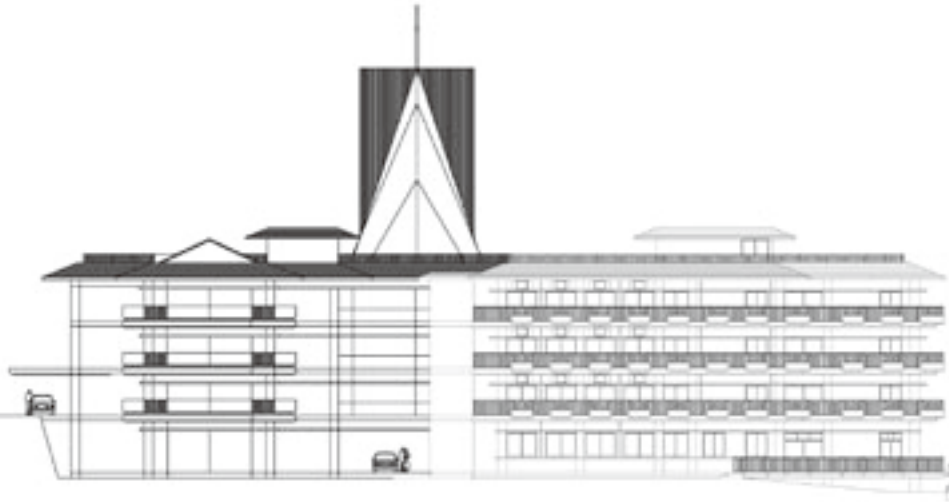
清水岡 生活支援ハウス ○ HALC コミュニティセンター

北側立面図



事務センター

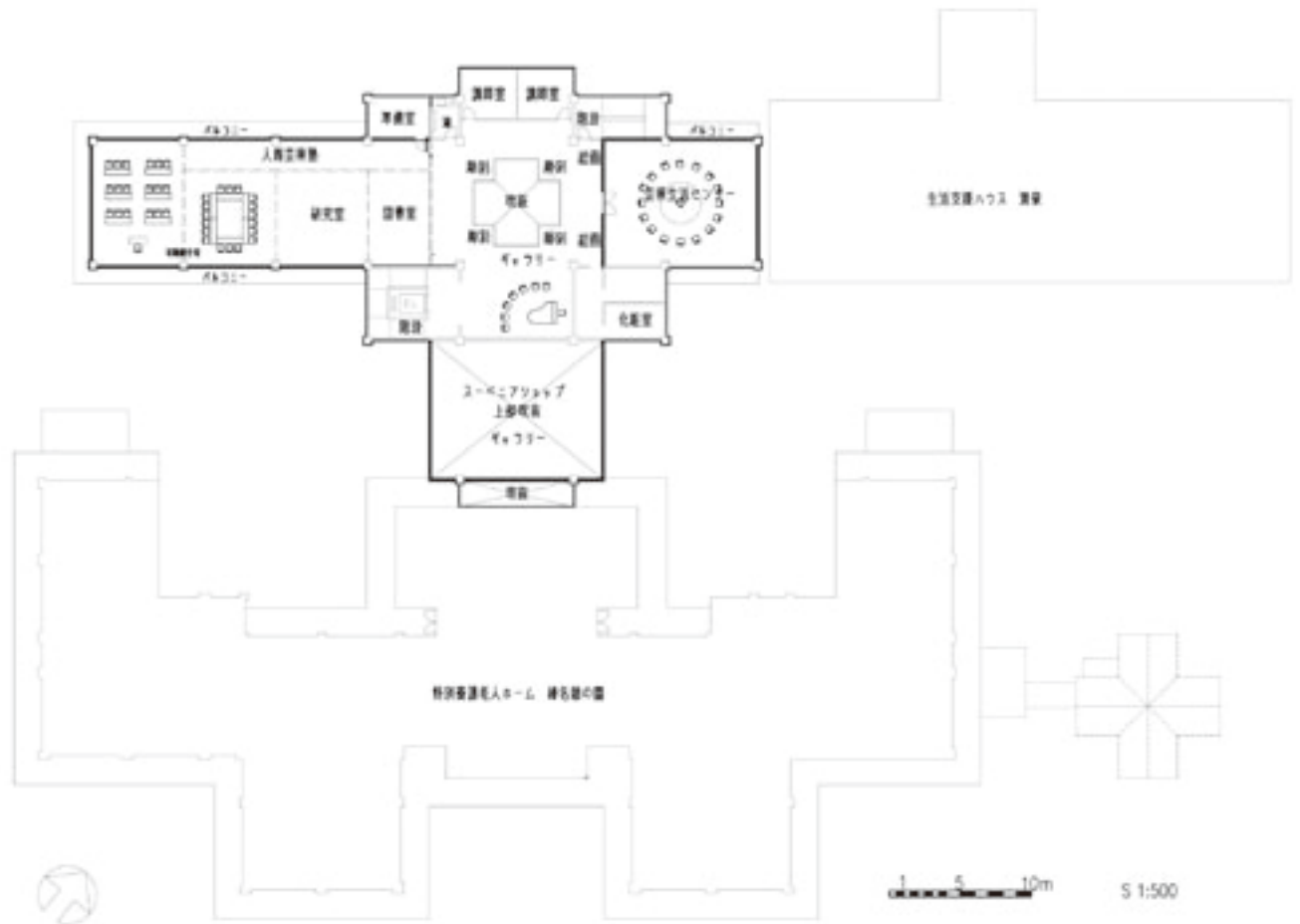
2階平面図



HALC 3Dセンター

特別養護老人ホーム 緑名園の里

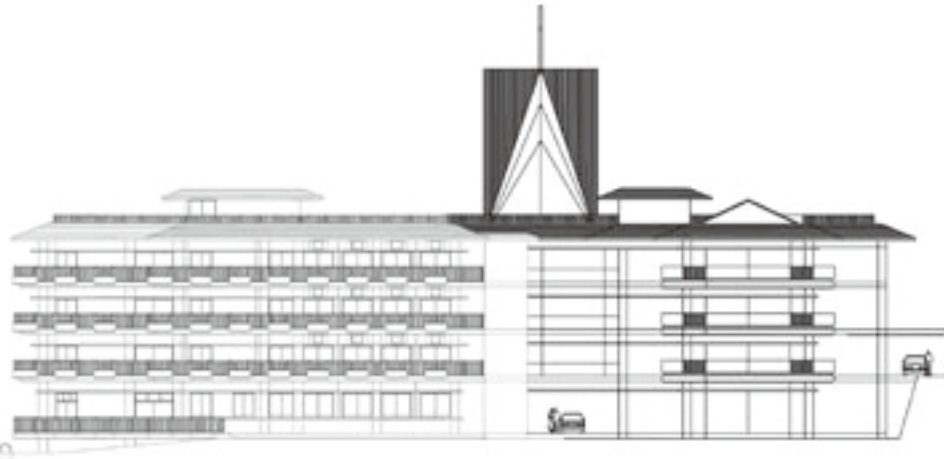
西側立面図



特別養護老人ホーム 緑名園の里

人間芸術塾

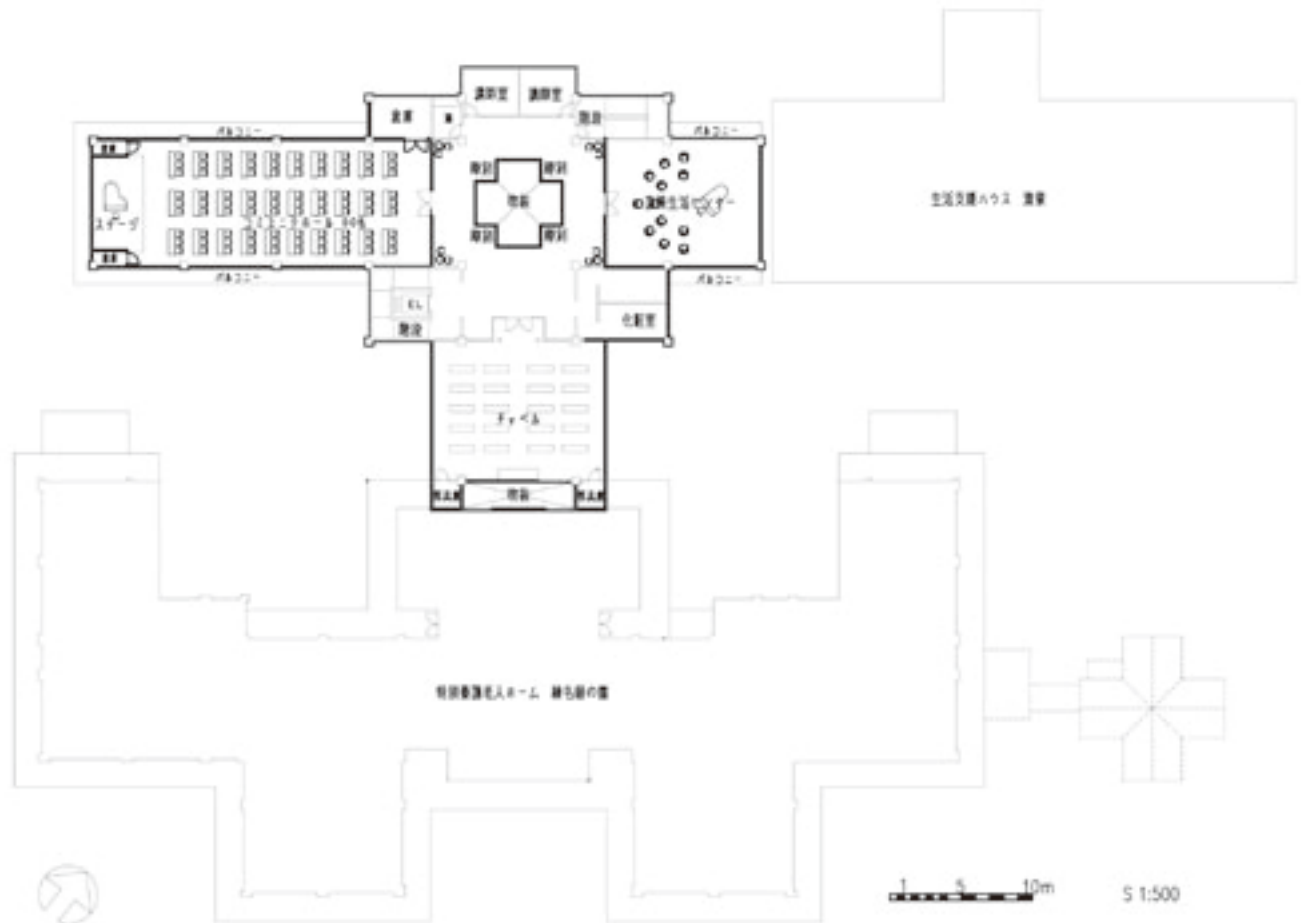
3階平面図



特別養護老人ホーム 緑名園の館

HALC コミュニティセンター

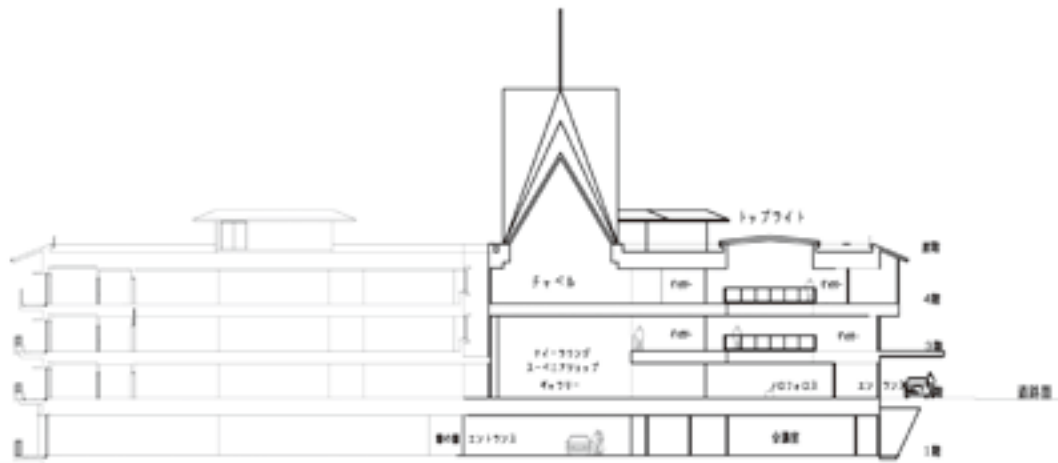
東側立面図



特別養護老人ホーム 緑名園の館

芸術生活センター

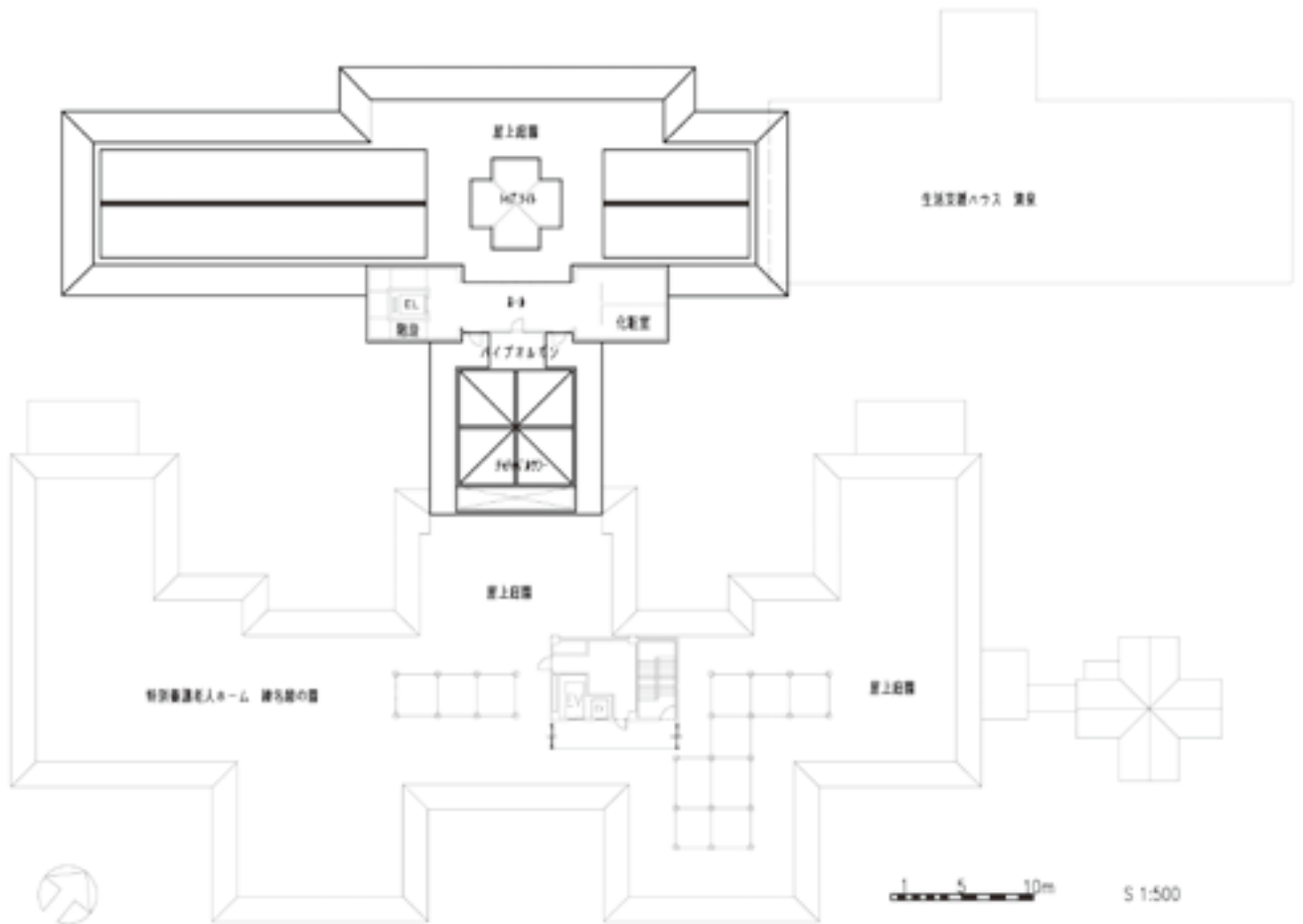
4階平面図



特別養護老人ホーム 緑名緑の園

HALO コミュニティセンター

断面図



屋上庭園

屋上階平面図

【事業資金について】

“HALCの実現に絶大なるご援助を”

新生会の事業はミレニアム2000年から、創業者・故 原 正男(前理事長)が期待をもってニューリーダーと呼んだ私どもの責任に托されました。半世紀を越えた新生会が、さらに深めた地球的ヴィジョンに立つ世界平和と、榛名荘・新生会に集う方々の創造的人生の構築に貢献を続けること。そのような経験知から生み出されたのが『HALCコミュニティセンター』です。

『HALC』は、いかなる障がいをもつ人も、人間として誇りをもって創造的に楽しく生きる人生を応援するための活動拠点です。

この『HALCコミュニティセンター』は制度枠を越えた事業です。そのため従来の補助金により頼むというわけにはまいません。この事業に賛同する方々からの熱きご支援とお力により実現への一步が踏み出されるのだと確信致します。

個人、法人各位に対しまして、HALCコミュニティセンターを建設するための絶大なるご篤志とご援助を心よりお願い申し上げます。

- 1. 建築規模** 延べ面積：2,725㎡ (824坪)
鉄筋コンクリート造 地上4階建て
- 2. 総事業費** 約8億円
建築・設計費、備品費、測量費、不動産取得税等繰延べ資金
- 3. 運営資金** ・研究、諸講習の会費、助成金、寄付金等
・事務所部門の光熱水費は既存施設按分負担

新生会の歴史と沿革

社会福祉法人 新生会

1957年7月30日：厚生省群社第273号にて、社会福祉法人の設立を認可される。

恵泉園（ジョージが丘）

1957年：生活保護法による養老施設恵泉園を定員30人をもって開設。

1967年：施設増改築整備を行い定員80人となる。

1988年：ジョージが丘へ移転新築により定員50人となる。

2000年：介護保険適用施設(短期入居生活介護)となる。

2006年：外部サービス利用型特定施設として認可される。

榛名憩の園（フィリアの丘）

1969年：新設開園、定員80人。

1973年：居室（医療管理棟）増築、定員120人に変更。さらに同年コミュニティホール等を増築する。

1979年：定員120人より130人に変更認可。

1982年：定員増を伴わない居室の増改築整備完成。ショートステイ事業を併設。〔県費補助事業〕

1988年：痴呆性老人専用棟（エンジェルホーム）増築により定員160人となる。

1997年：一部を「誠の園」として移転分離し、定員90人となる。

2000年：エンジェルホームが単独施設として分離し、定員60人となる。同時に、介護保険適用施設（指定介護老人福祉施設）となる。

併設事業として、デイサービスセンター フィリア（通所介護）、ホームヘルプステーション フィリアほほえみ（訪問介護）、在宅介護支援センター フィリアいこい（指定居宅支援事業）を行う。

2004年：在宅部門と共に全面改築。ショートステイ定員を15人に増員。旧居室棟の一部を生活支援ハウスに転用。

榛名春光園

1962年：軽費老人ホームA型が法制化され、国庫助成の最初の施設として新設開園。定員72人。

1964年：居室棟増築により定員100人となるが、居室1人あたりの面積変更により旧居室の改造を行い、1965年、80人に定員変更。

1985年：全面移転新築を行う。（県費補助事業）

梅香ハイツ バルナバ館

1975年：軽費老人ホームB型定員50人として開館。

1979年：定員を60人とする。

梅香ハイツ 高年者開発センター

- 1976年：老人福祉センターとして開所。
- 1978年：在宅老人の生きがい対策等のため作業研修棟を新設整備完成。〔県費補助事業〕
- 1982年：温泉として浴室を増改築給湯設備整備完成。〔中央競馬馬主社会福祉財団補助事業〕
- 1986年：食堂厨房、事務室等増改築整備を行う。

梅香ハイツ マリヤ館

- 1976年：高年者有料ホームとして開館、定員46人。
- 1986年：隣接地に2棟増設整備により126人。

新生会診療所（フィリアの丘）

- 1980年：恵泉園・榛名春光園・榛名憩の園の各医務室を統合した形により保険指定医療機関として県より認可される。
- 1997年：榛名憩の園に付属していた訓練棟を転用し、理学療法承認施設として認可される。
- 2000年：通所リハビリ等介護保険適用事業所となる。

新生の園（ジョージが丘）

- 1988年：有料ケアホーム定員50人として開園。
- 2000年：介護保険適用施設（特定施設入所者生活介護）となる。

誠の園（桜が丘）

- 1997年：榛名憩の園の一部移転新築に伴い新設。定員70人。
- 2000年：介護保険適用施設（指定介護老人福祉施設）となる。

マチュアホーム 穏和の園（桜が丘）

- 1997年：介護型有料老人ホームとして開園。定員60人。
- 2000年：介護保険適用施設（特定施設入所者生活介護）となる。

アニマルコンパニオンホーム 桜の園（桜が丘）

- 1997年：ペットと共に生活ができる、介護型有料老人ホームとして開園。定員10人。
- 2000年：介護保険適用施設（特定施設入所者生活介護）となる。

エンジェルホーム（ジョージが丘）

- 2000年：榛名憩の園より分離独立。定員40人。同時に、介護保険適用施設（指定介護老人福祉施設）となる。


生活支援ハウス 清泉

- 2004年：高齢者生活福祉センターとして事業開始。定員20人。

心泉の家

- 2005年：ボランティア研修宿泊施設として開設。宿泊定員37人。
まちの駅「エコビレッジ新生会」開設。

【お問い合わせ先】

 **社会福祉法人 新生会**
HALCコミュニティセンター
設立準備室

担当：櫻井淳司

〒370-3393 群馬県高崎市中室田町5983

TEL 027(374)1511(代表)

FAX 027(374)1510

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>

E-mail human-office@sinseikai.org





▲ 榛名荘・新生会全景

